

## イスタンブールにおける犯罪について

最近イスタンブールでは、睡眠薬強盗、路上での引ったくりやスリ、ニセ警官による詐欺、悪質なキャッチ・バー、絨毯詐欺等の犯罪に遭う日本人旅行者が増えていますので、くれぐれも被害に遭わないようご注意ください。

### 睡眠薬強盗

- 主な手口は、自称、南アフリカ、チュニジア、クウェート人と称し、英語で親しげに話しかけてくる。同じ観光客を装い、「一緒に観光しよう。」などと申し向ける。**打ち解けたと見たところで、睡眠薬を混入したビールや清涼飲料水、クリーム入りビスケットを取り出し、食べるように勧める。昏睡に陥ったところを見計らい、所持品を強奪、放置して逃走する。**といったものです。



- こうした被害に遭わないためには『**見知らぬ人から飲食物を勧められても毅然とした態度で断る**』勇気と『**ホテルまたはレストラン以外での飲食はしない**』という習慣を身につけて下さい。2002年には死亡事件にまで発展しており、2004年には山中に置き去りにされるなど4件、2005年はこれまでなかった女性も含め9件、2006年は10件発生しています。

在イスタンブール日本国総領事館

緊急電話：0212-317-4664

## ニセ警官詐欺

- 警官（私服）と称する男が、偽物の警察官身分証明書を見せながら近づき、身分（パスポート等）や荷物の検査や確認をしたいと言ってバッグなどを調べるふりをし、貴重品等を盗む。また、路上で道を尋ねられ答えていると別の男が偽物の警察官身分証明書を見せながら近づき、今話していた男と不当な両替をしていなかったか、または麻薬の捜査等とあらぬ疑義を持ちかけ、財布の中身を調べるふりをして金銭を盗む手口です。



- トルコ共和国では国民全員が身分証明書を携行しており、身分証明書の提示を求めた事により犯行を諦めた事例もあります。
- 見知らぬ人に声を掛けられたら決して警戒を怠らず（無視する）、また荷物を預けたり、安易に触らせたりしない事が肝要です。なお、当地では警察官が外国人に対して英語で呼び止めることは殆どありません。

- **不審に思ったら相手に身分証明書（IDカード）の提示を求める、所属警察署名を聞く、或いは当館に連絡するように伝え、むやみに荷物や財布を渡さないことが肝心です。**



- ガラタ橋及びカラキョイ周辺、タクシム界限で多発していますので、注意して下さい。

在イスタンブール日本国総領事館  
緊急電話：0212-317-4664

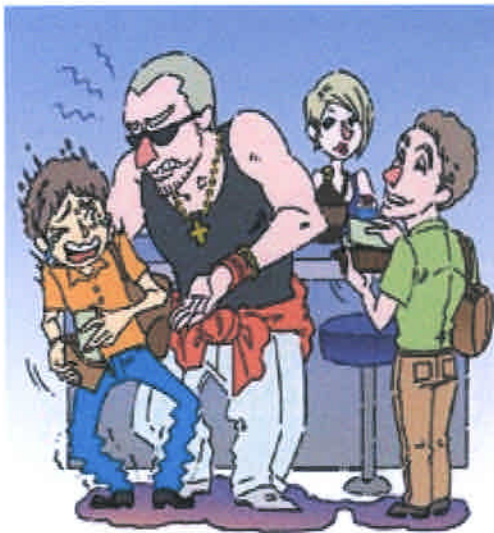
## 引ったくり及びスリ

- 単独の常習犯等による単純な手口の外、数人が通りでけんかなどのまねごとをしたり、ぶつかってきたり、エスカレーターで故意に物を落としたりと、**どさくさの中で狙った人を取り囲むようにしながら、中の一人が財布等をスリ取っていく**ものです。旧市街のバザールなどでは、鍵のかからないショルダーバッグから全く判らないうちにスリ取られた事件も発生しています。



- **鞆には鍵をかける、ディバッグなど背負い式の場合は体の前に持つ**てくる等の対策を講じて下さい。

## 悪質なキャッチ・バー



- 自称北アフリカ出身の旅行者、或いは客引きに言葉巧みにけばけばしい店に連れ込まれ、ホステスが来たりシャンペンを開けたりし、**本人が殆ど飲食しない場合でも法外な料金（数万円から10万円以上の例もありました）**を請求され、抵抗すると用心棒風の男が出て来て脅されるという手口です。今年是一年旅行の邦人女性が、強引に腕を引かれて連れて行かれたと強行的な手口も発生しています。

- **客引きを安易に信用せず『毅然とした態度で断る』勇気が必要です。**
- タクシム地区イスティクラール通り等で頻発していますので、注意して下さい。

在イスタンブール日本国総領事館  
緊急電話：0212-317-4664